world is mine

Ｌｉｔａｌｙ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ｗｏｒｌｄ　ｉｓ　ｍｉｎｅ

【Ｎコード】
Ｎ３７５８Ｐ

【作者名】
Ｌｉｔａｌｙ

【あらすじ】
はいはい残念でした。

昔からずっと欲しいものがあって、手を伸ばすのだけど、とどかない。

つま先立ちで、腕と手と指を一本の棒みたいにして伸ばすのだけど、やっぱりとどかない。
ちょっとくらい飛び跳ねてみたりもしたけど、それでもやっぱりとどかない。

昨日、出かける前にお風呂入って、保湿クリームを塗って、その上にＢＢクリームを塗りたくってみたら、角質の隙間に入り込んで、ひび割れて、バイオハザードに出てくるゾンビみたいな状態になった。

上から保湿クリームを塗ってみたり、ＢＢクリームを上塗りしてみたり、角質の状態が酷い部分を擦って落としてみたりするのだけど、ぼそぼそとこぼれおちるだけで、一向に良くならない。
ちょっとでも可愛くして出かけたいとか色気出したのが裏目に出た。

時間がなかったから、慌ててお湯で全部洗い流して、上からまた保湿クリームだけ塗りたくって、ギトギトの肌で出かけた。

努力でどうにか出来る事と出来ない事がある。
現実を痛感する。

僕は生まれつきの肌の病気があって、古くなった角質が自然に皮膚から剥がれ落ちてくれないから、２時間くらいかけて皮膚の表面を削り落とす必要がある。

昨日もかなり丁寧に落としたのだけど、やっぱり冬の乾燥のせいもあって、化粧を出来る状態までもっていけなかった。
でも、これ以上擦ると、薄くなった皮膚が裂けて血が出る。

お湯で一度全部洗い流して、ガサガサになった肌に保湿クリームだけ塗りたくって、家を出る時、一瞬だけ泣きたい気持ちになったけど、泣いて何かが良くなるわけでもない。
カラのペットボトルに水道水を注いで家を出る。

心の中に、黒いのが沸く。
塞き止めようと努めるけど、うまくいかない時ってある。

またそうやってメソメソ、くだらねえなあ。
お前には無理だっつうの。
もう二十数年生きて分かってんでしょ。
いい加減諦めて、身の程をわきまえて生きてけばいいんだよ。
下らねえ事はやめちまえ。
とどかないって分かりきってるものに、性懲りもなくまた手をのばそうとするから、そうやって無駄に痛い思いする羽目になるんだよ。

いい年こいて、くだらねえ願望にいつまでも振り回されてんじゃねえよ。

いい加減大人になっていい年だ。
無駄だって分かり切ってる事を後何回繰り返せば気が済むんだ？
みじめな気持になるだけじゃねえか。
いい加減学べよ。
頑張ったって辛いだけだろ？
こんな気持ち、もう味わいたくないだろ？
諦めちまえよ。
そうすれば楽になるよ。

自分のなのか、そうじゃないのかよくわからない声が聞こえてきて、
その声は心から温度を抜き去って、痛みも息苦しさも感じないよう
になって、また何にも手を伸ばせなくなる。

泣いて喚いてせがめればまだいい。
この声は、そういう気持ちすら奪うんだ。

暗い穴倉の中で、ひたすらパソコンゲームに没頭して何年も何年も
過ごした。

ネットゲームの世界の「自分」はいつだってかわいい女の子なんだ。

お風呂で2時間皮膚を削ぎ落とす必要もない。
ひげをピンセットで一本ずつ抜く必要もない。
手の浮き出た血管やゴツゴツした骨格を気にする必要もない。
人目に怯えて無理して何かを演じる必要もない。

必死こいて重ねた努力が全く報われなくて、泣きたい気持ちになる

事だってない。

ＩＤとパスワードいれてログインすれば、そこには「なりたかった自分」がいるんだ。

感情はいつも鈍く淀んでて、辛いとも、寂しいとも、これじゃ駄目だとも感じなかった。

ただ、目が覚めたら新聞配りにいって、帰ってきて、ゲームして、寝て、起きて、新聞配りにいって、帰ってきて、ゲームして。

何年もそういう風に過ごして、諦める事には随分慣れたはずなのに、時々、本当に時々、諦める事をうまくできない時がある。

僕が諦めてきたそれを、努力で勝ち取って、満面の笑みを浮かべる人を見た時だ。

心が酷くざわついて、焦燥して、呼吸をするのもうまく出来なくなって、指が震える。

はいはい残念でした。

お前は「勝者」の側じゃない。

メソメソしながら、指くわえて「幸福な人」を見つめる「その他大勢」の役。

英雄でもなければシンデレラでもない。

そういうものをハタからみて妬んで羨む役。
悲しい？辛い？悔しい？
はっはー。
そういうのに翻弄されるのが、お前の役目。
運命ってやつ。
お前は負け組。
生まれつき男だった上に、可愛くなれるスペックも無い。
叶いっこない願望を抱いて、涙ちょちょぎらせて、惨めに生きる負け組の役。
ヒゲ面で、大人の男の顔で、泣く時だって、同情より嘲笑を誘う。
どうやったって可愛いヒロインにはなれない。
それがお前の運命だ。

で、本題だ。

そんな誰が書いたとも知れない、糞つまらねえシナリオを受け入れるな。

運命なんかに従ってやるな。
神様なんかにゆだねてやるな。
お前の人生はお前のものだ。

運命だろうがね、常識だろうがね、与えられた器の形だろうがね、
そんな陳腐な壁はぶっ壊して突き進んじゃえばいいんだよ。

ほら、お前の中にもあるじゃねえか。
沸き起こる衝動がさ。

奇跡なんていらねえよ。
神様なんて知ったこっちゃねえっつの。
しゃしゃり出て邪魔するならハタキ倒せ。

スペックだ？生まれ持った姿だ？病気だ？
小せえっつの。

そんなん鼻くそにも満たない程度の些細な問題だよ。
お前が「それでも」手を伸ばす事をやめないなら。

だから、ほら、もう手伸ばしちゃおうよ。

這いずり回って、手を伸ばして、伸ばして、死ぬ気で手を伸ばして、
それでも死ぬまで手がとどく事はなくて、報われる事なんてきっと
なくて、

”それでも”最後の瞬間まで手を伸ばし続けられたら。

「わたし」の勝ち。

青い空の向こう、雲の上に居るなんて言われてる誰かに向かって中
指突き立てて、ニヒルにほくそ笑んで死ねる。

わたしは、他の誰でもない、わたしの人生を十分生きたって言って、

笑って死ねる。

ちょっと寝て起きたら、次の壁をぶっ壊しに行ってくる。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3758p/

world is mine

2010年12月19日01時51分発行